

NO.4

2023年6月

長野反核医療者の会 会報



目次

- 第2回定期総会の報告
- 「勝手にG7！」の報告
- IPPNW第23回世界大会の報告
- 「反核平和への思い」vol.1

結成1年おめでとう！

第2回定期総会を行いました！

4月29日に、第2回定期総会を行いました。記念講演として、秋林こずえさん（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）をお呼びしました。「ジェンダーの視点と安全保障、平和運動」のテーマで、軍事主義と家父長制の関係についてお話しいただきました。参加した会員の報告、感想を共有します。



私は今まで「戦争とジェンダー」について関連づけて考えたことがなかったので、今回の秋林さんの講演会はとても新鮮なものでした。

はじめに、「フェミニスト平和運動の国際連携」のお話があり、ジェンダーに関連する身近な言葉があることに気付かされました。「雄弁」「雄々しい（おおしい）」「姦しい（かしましい）」「女々しい（めめしい）」etc…。前2つは良いイメージ、後ろ2つは悪いイメージがある方が多いのではないのでしょうか。こうした印象を持った言葉は、これまでの社会を作ってきた人たちによって今日まで使われています。フェミニズムは、「女々しい」など女性に関連する言葉が侮蔑語として使われないように、女性や女性の担っている役割が平等に扱われるように、ジェンダー平等の達成を目指す思想のことです。そしてフェミニスト平和運動は、そのフェミニズムによって平和な世界（差別・紛争・軍隊のない社会）を創ろうとする運動のことです。いきなり行動は難しいと考える方も、言葉を少し意識するだけでも変わってくるのではないのでしょうか。

続いて、「フェミニズムから考える軍隊」に関するお話がありました。軍隊と性暴力の関係について、「基地・軍隊を許さない行動する女たちの会」によって分析されています。軍隊の訓練は「男らしさ」＝「暴力」と結びつけられ過剰に強調されている、軍隊内の性暴力は「女らしさ」を否定する行為であり、軍が考える「強さ」を誇示する行為である、といった考え方が提示されました。感想交流では、「男らしさ（力）を誇示するために性暴力を命じられ、拒否できないことにより男性が加害者にさせられる、そうしたことも怖い」という意見があり、考えさせられました。



基地・軍隊を許さない 行動する女たちの会

1995年9月の米兵少女暴行事件を契機に、同年11月4日に95人の女性たちが呼び掛けて発足した。「平和の島・沖縄」の実現を目指し、平和・人権の発信を行っている。

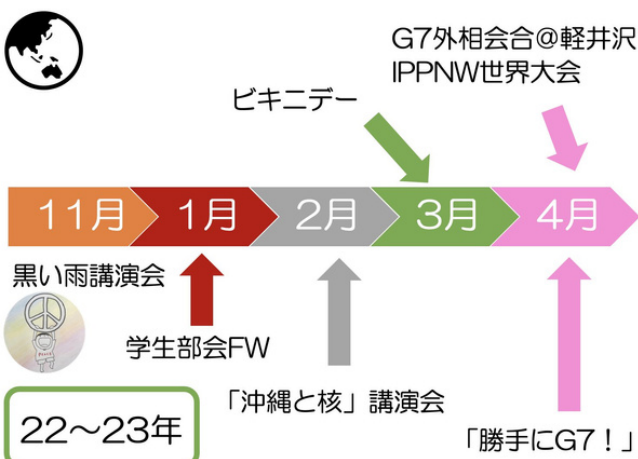
第1期活動報告 & 来期のアクションプラン



2022年度(第1期)の活動報告・会計報告と、2023年度のアクションプランについて提示しました。アクションプランは、4つのプロジェクト（被爆者とつながる、地域とつながる、会員同士つながる、黒い雨体験者申請サポート）と「学び続ける」ことを大切にしています。

参加者からは、「医療機関が被爆者にとって開かれた場所になるようにしていきたい」「お互いの想いを共有できて、勇気や新たな気づきが得られた」「今度は職場の同期も誘ってみたい」「楽しそうに活動をしていて、それも原動力なのだった」といった言葉が寄せられました。

アクションプランについてのご提案やご意見などありましたら、ぜひ事務局にお寄せください！



私たちのアクションプラン

長野反核医療者の会

被爆者につながるPROJECT

- 被爆者の想いに触れる・聞き取る
核被害当事者の声は、私たちの活動の源点です。
- 証言のアーカイブ化
後世の人も証言から学べる仕組みを考えます。
- 被爆の実相の語り手になる
今日の聞き手は明日の語り手！

会員同士つながるPROJECT

- みんなの「平和への想い」を見える化する
皆さんの反核平和への想い、ぜひお寄せください！
- 会報を読む

地域につながるPROJECT

- 信州大学人の会シンポジウム・戦争展への企画提出
- 県内の反核平和団体との連携
United we Stand!!
みんなで平和を作ります。
- 地方議会からの平和の発信を求める
地方は無力じゃない。
地方政治から平和を作っていきましょう！

学び続ける

- 会の学習・交流企画に参加する
会員が学びたいことを学べる会に！
- 他県・全国の反核医師の会の企画に参加する
- ICANなど世界の情報を得る
世界を知ると足元も明るくなる！
- ジェンダーの視点を深める
会の得意分野をジェンダーにしたら楽しそう！ Food not Bombs!!

黒い雨体験者申請サポートPROJECT

- 広島県民医連との協力
2022年4月から黒い雨体験者救済のための新制度が作られました。広島での取り組みに学びます。
- 県内の医療機関への呼びかけ
長野県内で、「黒い雨」について患者さんの相談に乗れる体制を整えます。

PEACE

市民の声を届ける！「勝手にG7！」を開催しました



議員ウォッチ

核兵器廃絶を願う有志が、核兵器問題に関する日本の議論を活発化させるために始めたプロジェクト。日本のすべての国会議員、都道府県知事、市区町村の立場をオンライン上で明らかにして、市民がたえずウォッチすることを目標としている。

4月11日に長野反核医療者の会と「平和と憲法をまもる信州大学人の会」「議員ウォッチ」の共同トークリレー企画を信州大学で開催しました。4月16～18日に軽井沢でG7外相会合が開催されることに合わせて、タイトルは、「勝手にG7！」としました。

まず、当会の田村から会を立ち上げた経緯、結成1年の活動について報告。続いて、議員ウォッチの徳田さんから市民の声をG7に届けるC7（Civil7）の活動や、企業や若者と一緒におこなった「#ちゃんとしんさいG7」の活動報告がありました。若い人が核廃絶について考え繋がって、クリエイティブに活動している姿が印象的でした。

トークリレー企画では、まず被爆2世で、長野県原爆被害者の会（長友会）副会長の前座明司さんから、被爆者運動についてお話がありました。被爆者が高齢化する中で運動を続けていく難しさがある一方で、被爆2世3世が新たな担い手になっているというお話でした。当会の光武からは、軍事基地拡大のすすむ宮古島を訪問した報告をしました。狭い島の中で民家のすぐ近くに弾薬庫のある訓練場がつくられ、住民の命を守る気があるとは思えない無謀な避難計画が進められているという内容でした。「軍拡」という言葉の裏で宮古島の住人にどんな影響が出ているのかを知り、衝撃を受けました。

そして、「#私の街から核廃絶を」東信ネットワークの羽田さんからは、議員ウォッチの活動の一つとして、長野県議会議員選挙で実施した候補者アンケートの報告がありました。地方議会でも議員ウォッチの活動を広めていくことで、いずれは日本政府が核兵器禁止条約に参加する大きな力になるのではないかと希望を感じました。

「勝手にG7！」の企画全体を通して、さまざまな場所でたくさんの方が核廃絶や平和のために活動していることを知ることができ、とても励まされました。今後も、たくさんの方とつながり活動を発展させていきたいです。



被爆者運動について話す前座さん



宮古島のいまについて話す光武さん



トークリレーの司会をいただいた議員ウォッチの羽田さん



IPPNW 第23回世界大会報告

4月26～29日（現地時間）、IPPNWの第23回世界大会がケニアのモンバサで開催されました。長野反核医療者の会から学生2名が参加しました。参加した学生からの報告です。



～反核で世界を結ぶ、Advocacy～

学生会議を含め、この4日間で議論されたことからは多岐にわたるが、その全てが以下の論点に立っていた。

▲人類存亡の2大危機、核兵器と気候危機には密接な関係があること。上記を、根拠をもとに実証すること。世間一般に知らしめる方法を探ること。克服するための世界的なつながりを獲得すること。

▲議論のなかで頻出したのが、「Advocacy」及びその派生語だった。核資源採掘の労働現場、核エネルギー使用により脅威にさらされている人々、その過程で起こる環境破壊、核使用による環境破壊。その影響に常に苦しむのは、核に威を借りて世界に緊張をもたらす9か国や核エネルギーを搾取する諸国ではなく、核資源の恩恵を直接受けることのないグローバルサウスの国々、労働者たちだ。つまり、最も核政策・核の生物学的影響に対して弱い人々だ。

▲今、核はサプライ・チェーンで世界と繋がっている。そのため、反核運動は世界的な視点で推進する必要がある。日本には未だ馴染みの薄い「Advocacy：（弱者の）権利（を権力あるものが）擁護（する）」の概念が、世界へ橋渡しするカギとなる。

IPPNW

（核戦争防止国際医師会議）

核戦争を防止する医師の国際的な運動団体。1980年に心臓病医学者のラウン博士（アメリカ）とチャゾフ博士（ソ連）によって設立された。1985年にノーベル平和賞を受賞（写真はその際に送られたメダル。世界大会の会場に展示されていた）。核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）にも参加している。世界大会は2～3年おきに開催されていたが、コロナウイルス感染拡大の影響で2020年から延期となっていた。



グローバルサウス

インドやインドネシア、トルコ、南アフリカといった南半球に多いアジアやアフリカなどの新興国・途上国の総称で、主に北半球の先進国と対比して使われる。世界経済における格差など南北問題の「南」にあたる。

サプライ・チェーン

原料調達に始まり、製造、在庫管理、物流、販売などの「商品供給の一連の流れ」のこと。供給を鎖に見立て、一続きの連続した流れとして捉える考え方。

「反核平和への思い」VOL.1

日頃の会話でも、意見のちがう

相手の話を掘り下げたり、取り残されたり

人を減らす努力をしたり、暴力を無くすことが
できるんじゃないかと思ったり。貧困と戦争と暴力
のない世界を創りたい!!

お名前 (伊東 元親)

所属・職種など (医師)

会員の皆さんの「社会情勢に対して思うこと」や「これまでの経験」などを紹介していきます。会員同士がお互いを知る場になりますように。

99%の人でつく

全ての人が生きやすい、生活しやすい

社会・世界には、してほしいです!

中野 良佳